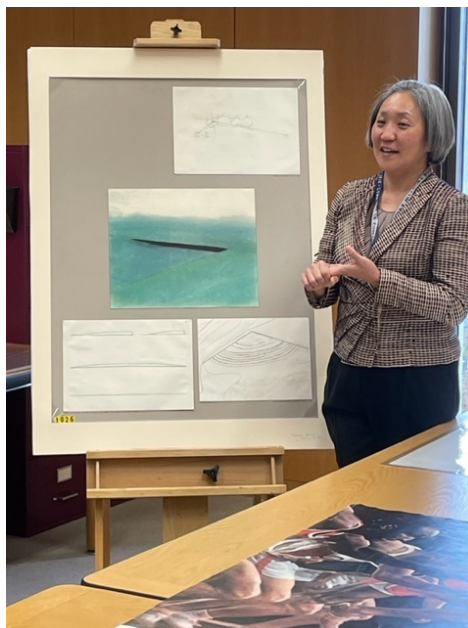


J-WIP 活動報告

2023年11月15日、ワシントンDCで働く女性を応援するJ-WIPによる第24回目のスピーカーイベントを開催致しました。今回の講師は米国議会図書館で学芸員（英語ではキュレーター）を務める中原まりさんです。中原さんのご専門は建築で、現在、米国議会図書館の所蔵品は1億8,000万点、その中で建築に関するものは400万点あるとも言われる中、所蔵する資料に関する鑑定や研究、学術的専門知識をもって業務の管理監督をされています。学芸員として、当図書館の400万点のコレクション・データを自ら作り上げられた他、講演やセミナーを通してのアウトリーチ活動も精力的に展開されています。



米国議会図書館には日本に関する所蔵品が180万点あるとも言われ、日本国外では最大のコレクションを所有しており、絵入りの平家物語、伊能忠敬の地図、ペリー提督の絵巻、大太平洋戦争開戦前の外交資料など、日本でもめったに見られない宝物が眠っています。今回、中原さんには、日本の桜寄贈に関わる資料収集、桜祭りとの出会いなど、日米関係の構築・発展に向けた自らの経験を含めたお話を熱く語っていただきました。

1912年に東京都がワシントンDCに桜の苗木3,020本が寄贈したのは様々な資料で知ることができますが、3,020本がどう選ばれたのかは、あまり知られていないのではないのでしょうか。中原さんは、1912年の2年前である1910年に贈られた2,000本は虫害ですべて処分されたのち、諦めることなく再度ワシントンDCに桜を贈ることに情熱をかけた一人の日本人、船津静作（ふなつせいさく）などを含む多くの人々のストーリーを紹介。当時、日本に現存していた58種から12の品種が選ばれた背景には、ワシントンDCの気候への考慮や、白からピンクまでといった花の色や花びらの数、匂いなどをもとに、どういう組み合わせが最も美しい桜並木ができるのか、などが検討されたとのことをお話を伺いました。苗木だけでなく、桜を紹介する絵画も併せて、人と人の手を介して、日本からワシントンDCに渡ったお話は、その絵画を目の前にして、胸を打つものがありました。

遡ること110年間、第二次世界大戦の真っ只中でさえ、「桜」がいつでも日米外交の要となっていた事実を貴重な資料も見せていただきながら、中原さんから教えていただいたことは、決して忘れることはないでしょう。

[ここに入力]



自らを Sakura Fever と紹介されるとおり、桜祭りに 10 年以上関わってこられた中原さん。私たちが訪問した 11 月 15 日はちょうど 2024 年桜祭りのキックオフ・ミーティングが行われるとのことで、わくわくされていた中原さんの笑顔が忘れられません。中原さんの行動力で毎年の桜まつりポスターもすべて議会図書館に所蔵されるようになりました。

米国議会図書館では、中原さんが「みんなのライブラリー」と強調されたように、16 歳以上であれば、だれでも資料を閲覧することができます。「日本はどちらかといえば『保存』、アメリカは『閲覧』『利用』『展示』に力を入れている。研究者が探している資料を見つけ出すためだけでなく、例えば、大学の授業に使える史料を提案するなど、多くの人に使ってもらいたい。デジタルの時代だからこそ、本物にふれてもらうことが大切である。」と、力説されておられました。

米国議会図書館での「すべてを見せる」「永久的に見せる方法を追求」という活動を通して寛容なアメリカ文化に接することで、さらに好奇心をもって“ライブラリー”にアクセスすることの大切さを学びました。

米国議会図書館の URL はこちら。<https://www.loc.gov/pictures/>

様々な所蔵物が自宅パソコンから見られます。一度、アクセスしてはいかがでしょうか。

※J-WIP(Japanese Women in the Professions in Washington DC)

ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016 年 1 月から、ワシントン日本商工会として支援。

[ここに入力]